

論壇

新しい知識の獲得必須

人生100年時代に向かっている。そうした中で、私たちの人生設計はどのように変えていったらよいのだろうか。文字通り100歳まで生きるかどうかは別として、平均寿命が長くなればこれまでも同じ人生設計ではうまくいかないことは明らかだ。

そうした中で、大学生を教える立場にある者として、学生たちによく言っていることがある。それは、「大学で学んだことで一生やっつけていけると考えてはいけない」ということだ。大学の4年間で学んだことで、その後の何十年の生活を支えることは難しい。それに

伊藤 元重 (国際経済学) 学術院大教授

もかかわらずこれまでのところ、大学で学んだことがその後のその人の仕事を決め、一生同じような仕事を続ける人が多い。

人生が長くなるだけではない。

その間、社会の変化のスピードも速くなっている。人生の中で、常に新しいことを学び続けることが必要となってくる。若い時に大

ていたのでは、新しい知識や経験を確保することが難しくなっている。

そこで最近よく言われるように

なってきたのが、リカレント教育だ。高校や大学を出た後の人生でも、機会があることに新しい教育を受けよう。日本ではリカレント教育は盛んではなかった。若

人生100年時代に向けて

学で学んだ知識だけでは、その後

の人生を乗り切ることができない。

もちろん、新しい知識は大学に行かなくても獲得できる。これまでの日本では、仕事の現場で新しいことをいろいろ覚えた。仕事の経験を通じた学びはこれから重要だろう。しかし、社会の変化はあまりに速く、職場にこもっ

い時に高校や大学を出た後、死ぬまでそうした教育機関とは関係がないという人が多かった。

海外の先進国を見ると、リカレント教育がもっと盛んだ。ビジネススクールや行政大学院などの専門大学院は、そもそも一定の職業経験がないと入れない。地域にはいろいろなコミュニティスクー

ルがあり、社会人に対して職業訓練の機会を提供している。私の米国の友人は若い時専門学校で印刷の技術を習得したが、40歳を超えてから、コンピューターのコースを専門学校で学び直している。印刷の世界でもコンピューターの知識が必要になったからだ。彼によれば、このような学び直しをしないと職の確保が難しかったとい

う。

リカレント教育に期待

リカレント教育にはいろいろなスタイルがある。最近はいんターネットを利用した教育機会も増えており、わざわざ大学や専門学校に通わなくてもいろいろなることが

業では、仕事時間の2割程度は別の仕事とは別のプロジェクトに参加することを義務付けている。これによって、新しいことを経験する機会が増える。

大学の教員には、7年に1度くらい、1年間大学の義務を解いて、海外の研究機関などに滞在する機会が与えられている。これをサバティカルと呼ぶ。こうした7年に1回の研究期間は、新しい研究分野に挑戦する貴重な機会となっている。最近では、このサバティカルの制度を、大学だけでなく、一般の企業にも活用しようとする動きがある。7年に1度1年間というのは無理としても、数カ月でもどこか別のところで研修や経験を積む機会があれば、企業にとっても戦力向上になるはずだ。リカレント教育にはいろいろな形態があり得るが、今後は日本でも広がっていくことを期待したい。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。